

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292800057		
法人名	医療法人 美篤会		
事業所名	グループホーム花水神		
所在地	千葉県鴨川市東江見395-2		
自己評価作成日	令和4年11月7日	評価結果市町村受理日	令和5年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和4年12月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

花水神に入居される前、見学に来られた方は、目の前の広大な海の眺望に感動されます。恵まれた自然環境を活かし、利用者様が自然と穏やかな気持ちになれる、そんな毎日を提供できるよう、全職員が心がけています。一人ひとりの利用者様の気持ちや人生の背景等に寄り添える対応ができるようカンファレンスを行っています。新型コロナウイルスの影響もあり、例年に比べ外出頻度は減ってしまいましたが、施設内で出来ることを考え実行できるようにしていきたいと考えています。ここ数年、海外より技能実習生が入職。スタッフ全員が指導者として、生活面や介護業務を丁寧に伝えています。利用者様との関係も良くチームの一員となっています。より質の良いケアを行うために、課題を共有し、取り組むチームでありたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

目の前に広がる太平洋は地域に生まれ育った利用者にとっての癒しとなっている。理念は「地域とのふれあいを大切にして入居者の安心と安全を第一に考え心から家族と思えるサービスに専念する事とする」としてホーム内に掲示している。自立支援として部屋の掃除や洗濯物たたみを職員が見守りながらおこなっている。残存機能の活用を促すよい取り組みだと思われる。通院は法人の母体病院に職員が付き添っている。訪問看護は週1回で24時間オンコール体制である。コロナ禍ではあるが、面会は事前連絡の上、居室で可能として、家族にも喜ばれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の安心・安全を第一に考え、心から家族と思えるサービスに専念することを共有している。	理念は「地域とのふれあいを大切にして入居者の安心と安全を第一に考え心から家族と思えるサービスに専念する事とする」として、ホーム内に掲示し、ケア会議などで確認している。特に家族と思えるサービスという部分は職員に浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であり、入居者の感染防止のため、地域とのつきあいはない状況である。	町内会、老人会などに参加している。以前はホームのクリスマス会に近隣住民にも参加してもらっていた。感染対策をして再開したい意向である。近隣からの介護の相談ごとを施設のポストに投函してもらい、それに回答するという仕組みがあり、活用されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記に同じ		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設からの現況を書面で報告し、電話にてアドバイスをいただいている状況である。	今年度は書面での報告としているが、例年の運営推進会議には区長、老人会長、民生委員、地域包括支援センター担当者などが参加している。入居者および職員の状況、行事報告、事故報告などをして、その後に電話で意見を聞いている。	運営推進会議は書面報告としている。書面でのやり取りの機会に利用者家族をはじめ、広く参加者からの意見を受け付けて、ホームからフィードバックするなど書面であっても双方向の会議としての活性化を図ることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難なケースへの対応や介護保険についての問い合わせなどで、適切な対応をいただいている。	介護保険についての相談などで市の福祉課とやりとりをしている。地域包括支援センターとは運営推進会議を介して相談し、意見をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一部の入居者については、ご家族へ了解を得て医療的観点から安全ベルトをしている時間帯がある。門扉は、無断外出のケースもあったため閉めている。	身体拘束廃止委員会を3か月に1回実施している。「緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書」があり、現在、車いすの安全ベルトの実施について、家族に説明して同意を得ており、記録を残して対応の検討をしている。	実際に身体拘束が必要と思われる事例があった時の流れなどが、職員にきちんと理解できるようにフローチャートなどがあるとよいと思われる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者と常に寄り添う関係のため、責任あるケアを一人ひとりの職員が行えるよう、モラルの向上や適切な声掛けを課題として業務にあたっている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の概要の理解と実際の活用方法の知識を深めながら学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者家族に、直接関係する項目を丁寧に説明するよう心掛けている。料金等の内容に変更があった時は、家族に説明し同意書を取り交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設への要望を書面にして、家族へ郵送し、意見を徴収する機会を設けている。	月次の便りに要望書をつけて、家族の要望や意見の返信をもらっている。また、家族の面会時にも意見を聞いている。コロナ禍で面会が出来なかったため面会再開の要望が多くあり、時限的に感染対策をして面会を可能にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議を適宜開催し、業務改善や運営に対する意見を職員からもらい、参考にしている。	職員には3か月に1度のケア会議で意見を出してもらっており、居室の扉のすべりなどを改善している。外国人職員の割合も多いが、記録も含めて日本語で対応している。言葉のニュアンスが伝わりづらい場合には、管理者が個別に時間をかけて対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が現場に入りながら、職員個々の介護技術や接遇の向上に努め、法人本部に報告体制をとっている。職場に定着するために精神面や働きやすい環境を整えられるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	訪問看護師が来た時や受診時に主治医から、入居者に対してのケア方法を受け、介護技術に活かせるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍であり、交流がない状況である。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	他入居者との関係や本人の生活への希望や不安を、本人が生活していく中で聞き取り、家族とも相談しながら穏やかに過ごせるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の生活を知ることにより、なるべく入居者の望む生活を過ごせるよう取り組んでいる。入居者が何に困っているのか気づけるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者自身、何が出来るのか。何に対して出来るのが難しいのかを見極め、必要なケアを考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「施設」であり「ホーム」でもある。出来ることは見守りや一緒に作業することで安心感を与えられるようにしている。入居者が主体を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症対策もあり、面会も制限されている中で、入居者と家族に温度差が出ている状況である。病院本部とも連絡を取り、少しずつ緩和できるよう努めていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	上記に同じ	コロナ禍ではあるが、家族と外食する利用者もいる。今後の外出は初詣を予定している。面会は予約制で居室で可能としている。近隣の人から面会希望もあり、対応している。馴染みの美容院に行く利用者もあり、送迎の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士で洗濯ものをたたんだりし、協力しあって生活をしていく環境作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、何か相談事があれば気楽に来所できるよう取り組んでいる。医療機関に移った後も、連絡をいただいた事例もあった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり生活スタイルが異なるので、日々の生活の流れを見ながら、無理のなく過ごせるよう支援している。	利用者の気持ちは、居室で個人的に話をして把握するようにしている。言葉で伝えるのが難しい人には声をかけた時の表情や動きから察するように努めている。血圧は高いけれども散歩もしたいし、梅干しも食べたいという希望もあり、健康状態を見ながら叶えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と家族から、今までどのような人生を歩み生活をしてきたのか、可能な限り伺い、住み慣れた環境作りを努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	他入居者との関わりを伺いながら、一人ひとりの入居者の変化を把握できるよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りで入居者の変化を把握し、状況共有するようにしている。その中で、ケア方法を検討している。	利用者本人や家族の意向を踏まえ、職員から収集した利用者の情報をもとに、カンファレンスを開催して、介護計画を作成している。モニタリングは3か月に1回とし、必要に応じて計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録には、決まった項目以外は些細な変化が記入できる欄をもうけ、具体的に記入し入居者のことをイメージできるよう意識していく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の健康状態を考え、無理のない範囲で、より良い生活が期待できる場合は、家族と一緒に新しい支援を検討していく。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症対策もあり、外出や地域資源の活用は出来ていない状況である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族からの要望がない場合は、中原病院を主治医へと変更している。定期受診以外にも夜間帯もコール対応ができ、適切な医療を受けられるよう連携している。	かかりつけ医については、入居時に法人の母体病院に変更している利用者が多い。夜間帯もオンコール体制があり、本人家族にとっても安心感があると思われる。精神科などの専門医受診は家族が対応することとなっているが、難しい場合は管理者が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問時には、入居者の変化を気軽に相談でき、訪問看護ノートに書いてくれることにより、職員全員が把握できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、病院外来看護師、訪問看護師には、変化のある入居者の情報を報告相談できるよう、日頃から連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りについての話し合いは主治医、看護師と連携し、必要性がある場合には早期に家族の要望を話し合うよう心掛けている。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」があり、重要事項説明書でも「看取り介護加算」について記載し、入居時に説明している。体制は整えているが、今のところホームでの看取りはない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々、健康観察をしていく中で、数値異常や身体的に異常があった時は速やかに医療機関へ連絡がとれるよう連絡体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	海が近く、海拔も低いので、高波や津波等の災害は避けることが難しいと考えられる。入居者の安全確保及び職員の体制についても、今後検討が必要である。	一昨年の台風でライフラインが使えなくなった経験を踏まえ、発電機を2基設置した。また、職員分のヘルメットも用意している。	今年度の避難訓練はまだ1回しか実施できていない。利用者も一緒に避難する訓練を考えており、実現が期待される。また、近隣や消防署など、地域の協力体制構築も必要と思われる。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護状況にもよるが、トイレのドアを開めることや入浴時にカーテンを開めること等「もし自分だったら」を心掛け、プライバシー確保や言葉かけに配慮することを心掛けている。	利用者と呼ぶ時は基本的に「ちゃん付け」はしないなど、利用者の尊厳を大切にしている。また、トイレ誘導の際にも、直接的に「トイレ」という言葉を使わずに表現を変えるなど、羞恥心への配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	具体的に言葉に出すことが苦手な方も多いため、選べたり、決定することができる支援を意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴は、時間に間に合わせようと気持ち焦る場面も出てしまうため、焦らず入居者のペースを尊重するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣替えの時期には、家族に連絡し交換を依頼している。また傷んだ衣類については、連絡相談する体制を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員主体となってしまっているが、その時期の食材を取り入れ調理をしている。クリスマスイベントは出来ていないが、誕生会を開きロールケーキをデコレーションして、お祝いをし、カットし入居者全員で楽しみを共有した。	早番が昼食、日勤が夕食、夜勤が朝食を手作りで提供している。一週間に1回朝食にパンを出したり、麺類を入れるなど変化をつけるようにしている。海が見える明るいいりびングで、ゆっくりと食事をしている姿を見ることができた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の安全を第一と考え、食事形態や献立を考えている。入浴後は、水分補給を忘れず促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後、就寝前に口腔ケアをしている。義歯を外して、洗い、ケースに片づける動作は、声掛けし守りしながら確認するようにしている。誤嚥防止のため、残渣物には注意をしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にて、排泄パターンを確認し、早めの誘導をし、なるべくトイレにて排泄が出来るよう促しています。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握しており、状況に応じて、自立している利用者にも声掛けをしている。入院中はポータブルトイレを使用していた人がホームで普通のトイレに行けるようになるなど、自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘で悩んでいる方が多く、緩下剤を服用しているので、水分を促したり、適度な運動をするよう工夫し、なるべく自然に排泄できるよう努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回程度のペースで入浴出来ているが、便汚染した場合も入浴対応をしている。散髪時は、全員入浴してもらっている。	個人のシャンプーやボディソープを使用する利用者もあり、一人ひとりが入浴を楽しめるよう努めている。入りたくないという場合は次の日にずらしたり、入浴チェック表を見てもらい「そろそろ入った方がいいですよ。」と声掛けするなど工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	集団生活であるため、ストレスを感じる場面もある。体調が悪くないか、部屋にて休めているのかを注視する必要がある。言葉には表れず、体の症状として出現する場合もあるので、安心できる環境作りを支援する。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬に変更があった時には、職員全員が把握できるよう申し送りをしている。副作用や禁忌についても処方情報を参照し説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	感染防止対策のため、集団レクが行えていない状況である。洗濯ものをたたむのを積極的に手伝ってくれる方が多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染防止対策のため、買い物や行事への参加は控えている状況である。天気の良い日に、バルコニーにて外気浴や敷地内散歩を行っている。	コロナ禍以前は、他施設の納涼祭や近所の洋品店に出かけるなどしていた。バルコニーからは海が見えるので、外気浴をするだけでも気分転換になっていると思われる。今後は、まず初詣に出かけたいと考えている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からの預かり金という形で、基本的には施設にて金銭管理をしている。入居者個人で、希望商品がある時は、預かり金より支出し、購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特段事情がない限りは、家族や親族等の外部と連絡が取れるよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ドアに目隠しとしてカーテン等を使用し、プライバシー確保に努めている。室温は、快適な温度を保てるように季節や天候に配慮しながら注意している。	窓越しに太平洋が広がるロケーションであり、天気の良い日はカーテンを開けるようにしている。訪問時にはクリスマスの飾り付けなどがされており、季節を感じる事ができた。また、時計やカレンダーを見やすい所に設置し、見当識障害にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は、リビングで過ごす方もいるので、入居者相互の関係性や相性を見て、座席やその場の空気には気を付けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が大事にしていたものや、家族から持ち込みのあったものは、居室にて保管し安心感をもって過ごしてもらっている。	入居時に、使い慣れた身の周りのものを持ってきてもらうよう伝えている。一人掛けのいすや家族の写真、好きな本やテレビなどを持ってきており、それぞれが安心して過ごせるような居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設なので手摺り等は設置してあるが、使い方が分からない入居者もいるので、その都度説明や声掛けをしながら使っていただくよう声掛けている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと